

大学院
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部
(男女共学)

幼稚部
(認定こども園・男女共学)



Contents

- ごあいさつ … 2~4
- 客員教員のご紹介／創立125周年記念事業 … 5
- **特集** 2026年度 入学式・入園式 … 6~7
- 学園各部報告 … 8~10
- 同窓会だより／アーカイブ室デジタルミュージアム … 11
- マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。 見つける人になる。



相模女子大学

CAMPUS NEWS

相模原・相模大野開学 八十周年！

学校法人相模女子大学
理事長
風間 誠史



この数年間、本学園は「創立百二十五周年」を掲げてきましたが、今年度は「相模原・相模大野開学八十周年」をアピールしていきたいと思えます。やたらと周年だの節目だのと言うのは多少気が引けるのですが、決して取ってつけたわけではなく、一九四六年にこの地に（当時の帝国女子専門学校が）移転して八十年という節目を意識することには、大きな意味があると考えざるからず。

取ってつけたわけではない、というのは、百二十五周年のコンセプトや記念事業の内容を検討してゆくなかで、百二十五年の歴史のうち、相模原に移転してからの時間がもう三分の二に近いということであらためて認識してきました。その結果、「地域とともに発展する『開かれた学園』へ」というコンセプトをはじめ、建設中の新棟とフランス庭園の整備にあたっても、地元の方々との交流の場となることを強く意識していますし、これも今製作中の百二十五周年記念誌も、基本的にこの相模大野の地で、街と共に発展してきた様子を中心に構成しています。「相模原・相模大野開学八十周年」は、「創立百二十五周年」と連動・連続したものとご理解いただければと思います。

これは大学の入学式で述べたことですが、本学は全国に先駆けて相模原市と「市民大学」を開いていますし（昨年六十周年でした）、キャンパスの春はお花見スポットとして市民の入学を歓迎し、もんじえ祭り（今年で二十回目）などの地域イベントには必ず学生が参加、相生祭（とりわけ地域物産展）は開場と同時に大賑わい。：。本学は相模原・相模大野の人々と共に在る学園として歩んできました。そして、大学だけでなく、高等部・中学部・小学部・幼稚部という併設各部の存在が、本学園と地域とのつながりを強くまた広範なものにしています。

そういうわけで、相模原・相模大野開学八十周年が、学園と地域の未来への確かな足掛かりとなるよう、この一年を意義ある一年としていきたいと思えます。

「相模原女子大学」御中

相模女子大学・相模女子大学短期大学部
学長
田畑 雅英



平素、大学および短期大学部の教育活動にご理解ご協力を賜り、あらためて厚くお礼申し上げます。

新年度を迎え、学芸学部国際コミュニケーション学科、人間社会学部に地域クリエーション学科という二つの新学科を開設しました。まだスタートしたばかりですが、いずれも本学の将来にとって重要な分野に関わる学科であり、これから大きく育っていきけるよう、努力を重ねる所存です。ぜひ皆様のご意見ご協力をいただければ幸いと存じます。

今年度は本学の前身である帝国女子専門学校が相模原の現校地に移転して八十年になります。この間、地元相模原の方々にご理解とご支援をいただきながら発展を続けてまいりました。近年、本学は地域連携活動に注力し、北海道から沖縄に至る各地で学生が活発な活動を展開しておりますが、そこで蓄えた知見を活かし、地元相模原市や神奈川県とこれまで以上に連携を深めて、地域とともに発展する大学をめざしていきたいと考えております。本年度開設した地域クリエーション学科はまさにそうした地域の発展を担える人材の育成をめざしています。

本学には稀に「相模原女子大学」という誤った校名を宛名に記した郵便物が届きます。そうした郵便物を見るたびに、こうした校名の誤りが一通もなくなくなるよう、大学の認知度をいっそう高めていこうと意を新たにしておりますが、しかしこれは、誤記とはいえ、ある意味では本学のめざす方向性に沿った表現と言えるのかもしれませんが。

本年度末には、茜館の建て替えにあたる新棟と、その周辺の整備が完成する予定です。茜館に隣接していたフランス庭園は卒業生の方々にとっても思い出しの深い場所だったとお聞きしますが、そこも含めて生まれ変わったこの一角は、まさに開かれた区画として、地域の方々との交流の拠点となることが期待されています。地域の発展に貢献しながら、本学も、ともに新たな歴史を歩んでいければと存じますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶／学びの本質を求めて

高等部
校長
武石輝久



高等部では、4月7日(火)、花曇りの中入学式が挙行され、330名の新入生を迎えました。入退場では、7年ぶりに吹奏楽部の演奏が会場を包み、合唱部による校歌紹介の伸びやかな歌声が、新たな門出に彩りを添えてくれました。真新しい制服に身を包んだ生徒たちは保護者の皆様に見守られ、希望に満ちた表情で、高校生活の第一歩を踏み出しました。式辞で私は、新入生を「可能性を秘めた原石」と捉えていることを伝えました。原石は経験によって輝きを得ます。その経験とは第一に、「人」と「環境」との出会いです。勇氣を持って一歩を踏み出し、素直な自分を差し出すことで出会いは深まり、眠っていた力が引き出されます。本校が大切に「学び合い」も、対話を通して互いを磨く営みであり、生成AIが発展する今こそ、人と人が向き合う価値は揺らぎません。第二に、「すき間」に目を向ける姿勢です。常識の外側にこそ新たな価値やチャンスが隠れています。「本当にそうか」と問い直す複眼を持ち、自分の視界の外へ手を伸ばすことで、世界は大きく広がると伝えました。

教育課程改訂から4年が経ち、高等部では多様な科目が生まれ、教員の研鑽とともに生徒の学びも変化してきました。私が最近感じるのは、知識を「教える」だけでは価値が生まれにくくなったことです。生徒は YouTube などでも容易に必要な情報に触れます。だからこそ教員には、生徒の心に火を灯し、学びたいという意欲を引き出す「媒介者」としての役割が求められます。ヘーゲルの「すべては媒介である」という言葉の通り、出会う刺激や経験が次の世界へ踏み出す契機になります。それを支えることこそ、教育の使命です。

生徒たちはこの数年で、確実に学びのフィールドを広げてきました。今年度はこれまでの「外向きの学び」「学び合いの文化」に加え、教員と96名の生徒が協働しながら「学ぶ楽しさ」を追求してまいります。皆様には、引き続き温かなご支援を賜りますようお願い申し上げます。

しなやかに歩む一年 —面白くなってきた、その先へ

中学部
校長
中間義之



2026年度は新入生65名を迎え、全校生徒227名でのスタートとなりました。新しい仲間との出会いに胸を弾ませながら、互いを尊重し、共に成長していく学校生活を築いていきたいと考えております。

中学部校長の中間義之です。本年度もどうぞよろしくお伝えいたします。本稿では、中学部の取り組みと新年度にける思いについてお伝えいたします。

入学式では、新入生に「しなやかマインドセット」について話をしました。うまくいかないときに「無理だ」と閉じるのではなく、「まだできていないだけだ」と捉えること。この姿勢が、その後の成長を大きく左右します。私自身、困難に直面したときには「面白くなってきた」とあえて口にするようにしています。余裕があるから言うのではなく、余裕がないときほど、あえてそう言う。すると不思議と視点が前に向き、「ここからどうするか」を考えられるようになります。追い詰められてからが本番—そんな気持ちで、自分のスイッチを入れていきます。

これからの時代は、あらかじめ用意された正解をなぞるのではなく、その場で考え、判断し、自ら行動する力が求められます。中学部では、教育目標である「研鑽力・発想力・協働力」を柱に据え、こうした力の育成に取り組んでいます。

今年度から始まる中期計画では、これまでの取り組みをさらに前に進めるため、「教育活動の深化」を掲げています。新しいことを増やすのではなく、今ある教育活動の質を高めること、そして形だけになっているものは見直していくこと。一つひとつの取り組みの意味を問い直し、日々の学びや学校生活の中身をより確かなものにしていきたいと考えています。

中学部は、学園全体の中でも、基礎を育み、これからの学びや生き方の土台を築く重要な時期を担っています。その責任を自覚しながら、生徒一人ひとりが自らの向きを選び取り、主体的に歩んでいけるよう支えてまいります。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

子どもたちの幸福感を 育む学校づくり

相模女子大学小学部
校長
小勝 亜希子



今年度から、第20代小学部校長を務めることになりました。どうぞよろしく
お願いいたします。校庭の桜が若葉へと移ろい、生命の輝きに満ちる4月、新入
生を迎え、児童数349名、教職員54名で新年度のスタートを切りました。子どもた
ちの瞳の輝きに触れ、その責任の重さに身が引き締まる思いです。

本学園は、幼稚園から大学までが志を一つにする総合学園です。その中間に位
置する小学校の6年間は、生涯にわたる「学びの土台」を築く大切な時期を担っ
ています。

小学部では、豊かな自然の中での体験や、人との出逢いの中で「本物」に触れ
て心を揺さぶられる実体験を大切にしています。失敗を恐れずに「まずはやって
みる」ことで得られる「なぜ?」「わかった!」という心動かされる感覚こそが
学びの原動力です。学校という場だからこそ学べる、多様な価値観とのふれあい
や対話を大切にしてほしいと願っています。

また、今年度は本校独自の学習「つなぐ手」をはじめ、あらゆる教育活動の中
で日本文化のルーツに触れる学習を推進していきます。日本を知ること、自己
理解や他者理解を深める助けとなると考えます。国際化が進み、多様な人々た
の関わりが増えていく中で強味にもなります。また、総合学園の豊かな環境を活
かし、共に高め合う心を養います。教育は学校だけで完結するものではありません
。教職員一同、子ども一人ひとりの可能性を信じ抜く伴走者であり続けるとと
もに、ご家庭、そして総合学園内の各校種との連携も大切にしてまいります。

「教育は、子どもたちへの明日への贈り物である」という言葉があります。あ
りのままの自分を尊重する「自己肯定感」、自分を信じる「自己効力感」、誰かの
役に立っていると感じる「自己有用感」。これらの感覚をもてる場面を大切にし
ながら、子どもたちの幸福感を育む学校づくりを目指し、全力で教育活動に邁
進してまいります。今年度も本校の教育活動への変わらぬご理解とご協力を賜
りますよう、心よりお願い申し上げます。

保護者の方と育む 地域の方と歩む

認定こども園 幼稚園部
園長
洪谷 泰香



2026年4月より認定こども園相模女子大学幼稚園園長に就任いたしまし
た。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。桜の花びらが美しくひらひらと舞う
中、幼稚園部では新たに新入園児75名、転入児9名を迎え、入園式とどんぐり集
会(始業式)が挙行されました。柔らかな春の日差しが「進級・入園おめでとう」
とお祝しているかのように、子どもたちを優しく照らしてくれています。
2026年度は園児数297名、職員数105名で、にぎやかに新学期の、はじめの一
歩を踏み出しました。

本園の前身である日本女学校附属幼稚園は明治36年(1903年)に開設さ
れました。そこから数えると今年で123年目を迎えることとなります。この間に
たくさん子どもたちの笑顔が溢れ、その笑顔に大人たちも癒されたことで
しょう。長い月日の時代の変化と共に、保育も、子どもの姿や家庭での過ごし
方も大きく変わりました。しかし、子どもたちの持つ素晴らしい力や、溢れる
希望はどの時代も変わることなく、大人たちに幸せをもたらしてくれました。子
どもたちは自分らしく未来を切り開く強い力を持っています。そして一人ひと
りの持つ力を最大限に発揮するためには、様々な人との心の触れ合いや、協働
する営みが欠かせません。とても可愛くて小さな子どもたちですが、心の中を
覗いてみると私たち大人の想像を超えた様々な感情や発想が、見え隠れしてい
ます。

2026年度より、子ども・子育て支援法に基づく事業として制度化され、
全国の自治体で実施される『こども誰でも通園制度』が始まりました。本園で
も一時保育と共にこの4月より実施しております。幼稚園部は子育ての仲間とし
て、同年代の子どもとの関わりを通して成長する姿や、それらを温かく見守る
眼差しを保護者の方と共に共有して参りました。これからも、唯一無二の輝きを放
つ一人ひとりのお子様を大切に受けとめながら、保護者の皆様、そして地域の
皆様と共に育み、歩んでいく存在でありたいと願っております。

客員教員のご紹介

本学では、各界の第一線で活躍される方を客員教員としてお招きし、授業・講演会にて多くの学生や一般の方々が受講しています。2026 年度の客員教員の方々をご紹介します。



金子 修介 客員教授

映画監督。『信虎』（共同監督作品）でマドリド国際映画祭 2022 外国語映画部門最優秀監督受賞のほか、平成ガメラ三部作、『毎日が夏休み』『デスノート』『ゴールド・ボーイ』など監督作多数。『おそろし』などのドラマ演出や著述でも活躍。



羽生 宏人 客員教授

JAXA 宇宙工学研究者。2013 年『イプシロンロケット』でグッドデザイン賞金賞受賞。そのほか、受賞歴多数。2018 年には開発のプロジェクトリーダーを務めた世界最小衛星打上げロケット (SS-520-5 号機) がギネス世界記録に認定。

※ギネス世界記録はギネスワールドレコーズリミテッドの登録商標です。



ピーター・J・マクミラン 客員教授

翻訳家・詩人。2008 年『百人一首』を英訳し、同年、ドナルド・キーン日本文化センター日本文学翻訳特別賞等を受賞。『伊勢物語』、『万葉集』など多くの古典翻訳を手がけ、2019 年に『英語版百人一首かるた』を制作。2024 年外務大臣表彰受賞、旭日小綬章受章。

2026 年、宮中歌会始にて召人を務める。



客員教員エッセイ公開中!

<https://www.sagami-wu.ac.jp/faculty-introduction/visiting/essay/>

新棟建設とキャンパス再整備がもたらす新たな学びの姿

相模女子大学は、2025 年の創立 125 周年を機に、次代を見据えたキャンパス整備事業を推進しています。2027 年 2 月の完成に向け、建設工事が着実に進んでおり、新時代の象徴がその姿を現しつつあります。

本事業に際し、長年親しまれた歴史的建造物「茜館」は解体されましたが、その精神は新たな交流の場へと引き継がれます。新棟は、「女性の活躍を支援し、地域とともに発展する『開かれた学園』」というコンセプトのもと、学生や学園のすべての人が学部・学科の垣根を超えて集い、地域住民の皆様と共に学び成長できる新たなシンボルを目指しています。

新棟が実現する未来の学びは、「地域との交流」「成果の発信」「実社会の大人との対話を通じた成長」を軸に、社会と繋がりながら実践的な人間力を磨くオープンな拠点となります。世代を超えたつながりを育む場や、研究成果を社会へ届ける拠点が一体となり、実社会の空気を感じながら学ぶ環境が一步ずつ形になろうとしています。

125 年の歴史を礎に、この新しいキャンパスは、学園全体で未来を切り拓く力を育む「開かれた教育」の象徴となります。完成に向けて、変化する風景を楽しみながら、新時代の扉を共に開く日を心待ちにしています。



特集 2026年度 入学式・入園式

大学院・大学 入学式

4月8日(水)、相模女子大学大学院、相模女子大学の入学式を挙行しました。



田畑雅英学長挨拶

午前の部では、栄養科学研究所、人間社会学部・栄養科学部の新入生が、午後の部では、社会起業研究科、学芸部の新入生が、晴れの日を迎えました。

今年の入学式は、ご家族・保証人の列席のもとマンドリンクラブによるオープニングセレモニーの後、開式されました。田畑雅英学長より「新入生を迎えることは」、相模原市の本村賢太郎市長、風間誠史理事長、同窓会翠葉の澤藤桂会長より「お祝いのごは」が述べられました。

新入生代表による宣誓では、これからの大学生活への決意をしっかりと述べる姿に頼もしさが感じられました。

式典終了後には、新入生歓迎プログラムとして、アカデミックガウンの紹介が行われた後、夢をかなえるセンターの活動紹介、クラブ学生によるお祝いのパフォーマンスが行われました。

最後に吹奏楽部の演奏に合わせながら、アイドルダンスクラブをはじめ、その他のクラブ学生、学園キャラクター「さがっぱ・ジョー」とともに会場を大いに盛り上げました。

(学事企画課)



さがっぱ・ジョー登場♪



クラブ学生による合同パフォーマンス



本村賢太郎相模原市長の祝辞



新入生宣誓

高等部 入学式

春の柔らかな日差しが新たな門出を祝福する中、高等部の入学式が執り行われました。式典は7年ぶりとなる吹奏楽部の演奏に彩られ、その力強い音色は新入生一人ひとりの背中を頼もしく押すようでした。330名の新入生が緊張と期待を胸に、希望に満ちた一歩を踏み出しました。その真剣な眼差しからは、高校生活への意気込みが伝わってまいりました。

多くの保護者の皆様にご列席いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

これからの3年間は、自ら問いを立て、考え、決断する力を養う大切な期間です。多様な価値観との出会いや新たな学びへの挑戦に主体的に向き合う中で、自分だけの進路や目標を見つけていくことでしょうか。皆さんが自らの意志で自己実現への道を切り拓いていけるよう、心から願っています。

3年後、皆さんがどのように成長した姿を見せてくれるのか、学年教員一同、最大のサポーターとして全力で伴走してまいります。

(高等部1学年主任 吉田)



新入生宣誓



初めての出席番号順



7年ぶりの生演奏

中学部 入学式

春のやわらかな陽ざしに包まれる中、中学部の入学式が執り行われました。新しい制服に身を包んだ65名の新入生たちは、少し緊張した面持ちながらも、新しい学校生活への期待に胸を膨らませている様子でした。在校生代表の歓迎の挨拶では、これから行われる中学部の楽しい行事や中部独自の授業マールレットタイムなどの紹介があり、新入生たちは一生懸命に耳を傾けていました。新入生代表の生徒からは「ただ教えられることを待つのではなく、疑問を持ち、自ら調べ考え、理解を深めていく姿勢を大切にしたい。知ることの喜びを積み重ねながら自分の視野を広げ、物事を多角的に考えることのできる人間へを成長してきたい」との決意が語られ、「どんな自分になりたいか」という視点を持ったまっすぐな気持ちとともに、学習や部活動・行事に前向きに取り組みたいという意気込みが感じられました。

新しい環境、新しい出会いのなかで、一人ひとりが大きく成長していくことを願っています。

(中学部1学年主任 山村)



1人1人の名前が呼ばれ元気に返事をしました



合唱部による校歌紹介



新入生代表の言葉で決意が語られました

小学部 入学式

小学部では、4月10日(金)に第76回入学式が行われました。入学式は1年生にとって大切な、初めてのイベントです。小学部の入学式は、全児童参加で行われます。在校生は、この日に向けて3月から準備を進めてきました。新2年生は小学部の1年間で学習したことを小学部紹介として披露しました。新3年生は、入学して1年生のための玄関飾りや舞台の飾りを作りました。新4年生は、1年生の教室を彩る黒板飾りを準備しました。新5年生は、1年生にプレゼントする首飾りを作成しました。そして新6年生は、式当日に1年生が困らないようにするためのサポート体制を整えました。まさに全校で一丸となって臨む入学式でした。

入学式が始まると、38名の1年生は6年生と手を繋ぎながら入場してきました。その後、ステージに上がり、担任の先生から一人ひとり名前を呼ばれました。緊張の中、大きな声で「はい」と返事をしていきます。ここでも6年生が優しくサポートしてくれたので、安心して立派な返事ができました。

2年生の小学部紹介があったように、1年生はこの1年間、小学部でたくさん学びをしていきます。1年生がここからの1年間を楽しくのびのびと過ごし、毎日が充実したものになるよう、教職員一同、寄り添いながら過ごしていきます。

(副校長 坂田)



2年生による全校演技



ステージに座る1年生



元気に返事をする1年生

幼稚部 入園式

桜の花や花壇の草花が芽吹き心地よい春の訪れを感じる中、幼稚部へ新たな園児が入園しました。4月1日(水)は0歳〜3歳の2・3号認定の園児、4月9日(木)は3歳の1号認定の園児とそれぞれを迎える入園式が行われました。

2・3号認定の入園式はともにも和やかで、歌に合わせて拍手をしたり、ゆったりとした式の中で心地よさからうとうと眠り始める園児も見られ微笑ましいひと時になりました。

1号認定の入園式は子どもたちも初めての環境に緊張しているようでしたが、今から始まる楽しい毎日への期待が大きくなり、終始賑やかで、保育者や年長組が歌う園歌に合わせて拍手をしたりと楽しみながら参加する子どもたちの姿が印象的でした。

慣らし保育も始まり、あちらこちらから可愛らしい子どもたちの泣き声も聞こえていました。が、日に日に、楽しい様子を見つけて笑い声へと変わっていく様子が見られています。

様々な出会いと経験をする乳児期から幼児期の時間を幼稚部で過ごす子どもたちの一日はとても大切な時間だと思っています。その時間を一緒に過ごす私たち職員は責任の大きさを感じています。幼稚部で得られる経験が豊かな学びへと繋がるように、また心地よい居場所となるよう職員一同温かい気持ちで努めていきたいと思っています。(佐野)



園長先生のお話



職員から歌のプレゼント



入園・進級おめでとう

学園各部 報告

学園

第15回さがみ発想コンテスト

創立125周年を迎えた2025年度は、従来の産学協働形式ではなく、「相模女子大学をバズらせよう！〜さがじよのいいね〜」を伝える『リアル動画』をテーマとしてリアル動画作品を募集し、2月5日(木)に最終審査会を実施いたしました。計47組の応募があり、一次審査を通過した6組が最終審査会においてプレゼンテーションを行いました。厳正なる審査の結果、グランプリをはじめ各賞は、以下のとおり決定いたしました。グランプリおよび準グランプリ受賞の計3作品は、大学ホームページにて公開しています。

【受賞者一覧】(敬称略)

- グランプリ(1組)
●メディア情報学科2年 田代和花
「検証！相模女子大学」
- 準グランプリ(2組)
●メディア情報学科2年 松田百花
「自分」を見つけないで」
●生活デザイン学科4年 高橋愛結
「ここへ出たい、ここから進む」
- 入賞(3組)
●高等部1年 山本美琴
「相模女子大学高等部の魅力」

- メディア情報学科3年 猪狩杏弥
「のが教える、さがじよの魅力！」
- メディア情報学科3年 塩原望愛
「周りに勧めたい大学ポイント」



さがみ発想コンテスト最終審査会の集合写真

大学院・大学・短期大学部

大学院修了式・大学・短期大学部卒業式

3月6日(金)、相模女子大学グリーンホールにおいて、相模女子大学大学院修了式、相模女子大学・相模女子大学短期大学部卒業式を挙行了しました。各学科や研究科の総代に卒業証書・学位記が授与されたのち、田畑雅英学長より「卒業生におくることば」、風間誠史理事長、同窓会翠葉の田中百子会長より「お祝いのことば」が述べられました。

閉式後は、本学がロケ地となったABEMAドラマ『パッドチョイス・グッドラブ』の主演の宮崎優



学位記授与

さんと山下幸輝さんがサブライズ登場し、会場は大いに盛り上がりました。想定外の出来事を含めた今回の卒業式は卒業生にとつて思い出に残る貴重な機会となりました。

日本語日本文学科 第51回卒業制作展を開催しました

1月20日(火)〜26日(月)、本学本学7号館1階ホール・相模大野ギャラリーにて、第51回日本語日本文学科卒業制作展と書道ゼミナールによる3学年書道展・書道部展を開催しました。

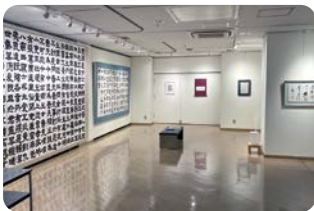
卒業制作展では原寸(拡大)臨書2点、創作(漢字仮名交じりの書)1点、共同制作1点の計4点を基本とし、3メートルの美しい料紙に書いた卷子、2尺×8尺6幅の大作から、半切・色紙サイズの小品など、計20点を出品しました。

ご来場頂いた皆様、誠にありがとうございました。今回の卒業制作展及び書道ゼミ学生の卒業論文題目は、2026年2月5日、3月20日発行の「美術新聞」に連載して紹介されました。

(日本語日本文学科・下田)



第一会場写真



第二会場写真

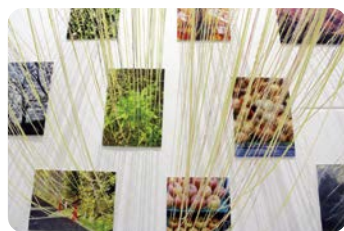
生活デザイン学科 2025年度卒業制作展を開催しました

生活デザイン学科では、2025年度の卒業制作展を2月3日(火)〜8日(日)まで、本学キャンパス内で開催しました。

夢をかなえるセンター、ガーデンホール、6号館、8号館、クラブハウスふじの5箇所を会場とし、「多彩」というテーマのもと、本学科の強みである領域横断による学びが結実した、創造性あふれる作品が並びました。表彰式では田畑学長にご列席いただき、学生たちの熱意と努力が輝く卒業制作展となりました。

開催期間中は、多くの方々にお越しいただきました。ご来場いただきました皆様にご感謝申し上げます。作品はWEB展でもご覧いただけますので、是非そちらもお楽しみください。

(生活デザイン学科・堀内恭司)



日常色



ひと粒の願いごと

中学部・高等部
高等部 MQ Awards

2026年2月14日(土)相模女子大学グリーンホールにて「MQ Awards 2025」を実施しました。高校2年生の各コース代表者9名がこれまでの探究活動の成果を発表する場です。



発表者記念撮影

高校1年生は先輩の姿を見てこの先の姿をイメージし、高校2年生は仲間が発表する姿を見守るような雰囲気がありました。大きな舞台で堂々と発表している姿は自信にあふれ、探究活動への熱意が伝わってきました。

また、高3の特別出演では、これまでの探究活動における学びがどのように大学入試へとつながっていったのかという話をしてくれました。物を使ったプレゼンテーションは説得力があり、聴衆に深く伝わりました。

代表生徒は以下の通りです。

〈リベラルアーツコース〉

- ・須藤さん 「相模原PR@」 ☆MQ特別賞
- ・宮園さん 「旅するように神社を巡ろう」
- ・林さん 「相模原の文学を身近に」
- ・鶏内さん 「住み続けられる」さがみはらへの第一歩「空き家問題について」のんちゃんを考えました」

〈ライフサイエンスコース〉

- ・二川さん 「ありがとう」と言われると、寿命は延びるのか」 ☆MQ大賞
- ・南さん 「肌の傷を治すには」ルッキズム社会から考える」 ☆MQ優良賞

〈グローバルコース〉

- ・宮崎さん・大和田さん・古瀬さん

「WHAT HAVE WE LEARNED FROM TANAKA INC.?'」
〈アカデミックコース〉

- ・コーフィールドさん 「建築と展示」展示が伝える情報とは」 ☆MQ優秀賞
- ・藤井さん 「海外と日本の睡眠に対する意識の違い」 (高等部 三箇山)

MQ大賞 受賞者コメント

私は「ありがとう」と言われると、寿命は延びるのか」という発表でMQ大賞を受賞しました。小学生の頃、友人を助けた際にお礼がなく心のどこかで寂しさを感じた経験があります。この経験から感謝の言葉の大切さを実感したとともに、長生きしたいという個人的な願いから、感謝と寿命の関係性について探究活動に取り組みました。活動では、感謝を伝え合う企業の事例を調べ、それを参考に「ありがとう」という言葉そのものの影響をより正確に検証できるよう、内容を一部変更してクラスで再現しました。それと並行して2種類のアンケートも実施し、感謝を伝え合う環境がもたらす変化を客観的なデータに基づいて分析しました。自分では気づきにくい他者の多角的な視点も組み込みながら、感謝の気持ちを言葉にして伝えることで心身にどのような影響を与えるのかを深掘りしました。



「MQ大賞」受賞

データを収集し分析する経験を通して、聞き手に分かりやすく伝える難しさを感ずりましたが、「寿命は延びる」と自分の立てた仮説が立証されていく楽しさを知ることができました。試行錯誤しながらこの探究活動をやり遂げたことは、私にとっても大きな自信となりました。これからも感謝の気持ちを「ありがとう」と言葉にして伝える大切さを、周囲に伝えていきたいです。

(二川さん)

中学部合唱コンクール生徒の振り返り

三年間の合唱コンクールを通して、私は様々なことを学び、大きく成長することができたと感じています。

まず、一年生の合唱コンクールでは、協調性や積極性の大切さを学びました。みんなで見えを出し合い、認め合うことで、クラスに統一感が出ると思いました。また、一人ひとりの努力が歌や態度に表れるということも実感しました。先輩の歌声を聴き、「頑張つて歌う」だけでなく、「楽しんで歌う」ことの大切さにも気づくことができました。真剣に取り組んだからこそ、意見がぶつかり合うこともありましたが、そこから多くの学びを得ることができ、それがクラスや自分自身の成長につながったと思います。



二年生の合唱コンクールは、「みんなで歌う」ことを楽しむことができました。また、自分なりに努力することができました。も学びました。はじめは、歌うことが苦手で、合唱コンクールという行事に対してあまり前向きに取り組みませんでした。しかし、一生懸命頑張っている友達の様子を見て、自分も頑張ろうと思えるようになり、家でメロディーをピアノで弾きながら個人練習をしたりと、自分ができることを精一杯取り組みました。その積み重ねのおかげで、段々と前向きな気持ちで練習に参加できるようになり、本番では、一年生の時にはできなかった「楽しんで歌う」ことができました。

そして、三年生の合唱コンクールでは、人を感動させられる歌を届けたいと思ってきました。三年二組のみんなと頑張れる最後の行事だったので、寂しさもありましたが、本当に楽しかったです。みんなの声が一つになった瞬間、言葉では表せない感動を感じ、みんなと頑張ってきた良かったと思えました。友達や家族から「感動した」と言ってもらえた時はとても嬉しかったです。中学生最後の行事が、最高の思い出になりました。

(2025年度)

中学部3年

羽場 結希乃



金賞クラス



銀賞クラス



銅賞クラス



小学部

ヤギのバナラが死を通して教えてくれた小学部における「動物飼育教育」の意義

2026年2月17日、ヤギのバナラが12歳のお誕生日を迎える2日前に寿命をむかえました。毎日共に過ごしてきたバナラの突然の死の訪れは、とても残念であり、悲しい出来事でした。

バナラの亡骸は19日の朝までバナラ小屋に安置し、縁のある方々が会えるようにしました。バナラの訃報に触れ、多くの方が弔問に来てくださいました。

毎日の散歩でバナラ小屋を訪れていた認定子ども園・幼稚園の子どもたち、小学部の卒業生、中高等部の生徒、学生、保護者、相模女子大学に関わる多くの方と心でむすばれていたことに気付かされました。

子どもの登校とあわせて弔問にいらした保護者が語ってくださる言葉からは、子どもの成長と共にいたバナラが保護者にとっても家族のように愛する存在であったり、心の一部になっていたりとということが伝わってきました。

バナラは「小学部」を越えて「相模女子大学」全体のシンボリックな存在でもありました。

バナラは、「最後まで生き切る」という意味や、そこにいるべき存在がなくなる「死」の意味、愛着あるものとの死別について、2ヶ月経った今もなお私たちに教え続けています。子どもたちは、辛く・悲しい死別体験を共にした仲間と過ごす中で、一人ひとりが適切に受け止め、乗り越えています。

バナラの亡骸は、相模原市獣医師会を介して検体として麻布大学に受け入れてもらい、獣医師を志す学生とともに

に病理解剖された後、茶毘に付されました。麻布大学で学ぶ将来の獣医師にとっても大変貴重な学びの機会となったとのことです。

地域組織と連携した持続可能な動物飼育の体制を整え、この場で園児から大人までが「動物の命から命を学ぶ」ことができるようになったのもバナラがいたからこそ実現できたことです。バナラの遺骨は、4月21日、3年生の子どもたちと百年桜の根元に埋葬しました。
(小学部 三橋正英)



バナラの遺骨にやさしく土をかけてあげる様子



手を添えてバナラとお別れする子どもたち

認定こども園 幼稚部 第76回 卒園式

桜のつぼみが膨らみ春の訪れを感じる中、幼稚部では3月14日(土)に卒園式が行われました。

当日の朝、子どもたちは友だちや担任の先生と「いよいよ卒園だね」「まだ幼稚部を離れたくない」など別れを惜しむ姿が見られ、子どもたちなりに今日が最後の日という事を実感しているようでした。

式が始まり、入場する子どもたちの姿は最高学年としての自覚が感じられるほど、とても凛々しくありました。担任の先生が子ども一人ひとりの名前を呼び、元氣よく返事をする姿から、幼稚部で子どもたちと過ごした日々が鮮明に浮かび上がり、胸がとても熱くなりました。

クラスに戻ってから卒園証書が授与され、保護者に見守られながら一人ひとり担任から証書を受け取りました。帰り際には、共に過ごしてきた友だちと別れの挨拶を交わしたり、お世話になった先生に会いに行ったりと幼稚部での思い出を振り返りながら別れを告げ、無事に園を巣立っていきました。

卒園した子ども一人ひとりが、幼稚部で経験したことを存分に発揮し、充



4月から1年生!頑張ってくださいね!



元気いっぱいの返事がホールに響きました



さくら組のみなさん、ご卒園おめでとうございます

実した小学校生活を楽しんで送れるよう職員一同心より祈っております。
(石田)



家政科生活経営専攻で過ごした日々

佐藤 登美子

(平成3年短期大学部家政科生活経営専攻
山形県教育局 教育政策課 総務専門員)



私が相模女子大学短期大学部家政科生活経営専攻に入学したのは、
遡ること37年前、世の中がバブル景気の真っ只中と言われ、消費税
が初めて導入された1989年(平成元年)4月のことでした。

もちろん山形新幹線はなく、山形から上京するには、福島まで特急
に乗り、福島で東北新幹線に乗り換え、終点は上野駅の時代です。町
田のアパートで初めての一人暮らしをし、相模大野へ1駅の電車通学
でした。山形の実家では、祖父母と両親、姉の三世同居の6人家族
で育った私にとって、たった一人での日々の生活はとても寂しいもの
でした。当時は固定電話しか無く、実家へ電話するのも電話代を気に
しながら、用件だけ話したものです。

当時の授業時間割を改めて確認したら、なんと1限は8時40分
から、1コマ100分でした。相模大野駅から高等部の生徒の波と一緒に
大学へ向かったことが思い出されます。入学時は、相模大野駅はまだ
以前の木造の駅舎で、女子大通りのロビーシッター側はまだ白い工
事中の塀が続いていました。その後お店が並び、伊勢丹がオープンす
るといふ、新旧が混在する2年間だったと思います。

生活経営専攻は、教職課程の履修によって中学校教諭2級(家庭)の
資格が取得出来ましたが、2級での教員での採用を目指すのは現実的

でないと思い、入学した時から公務員を目指そうと思っていました。
また、自分でも履歴書に書ける資格を取得しようと、ワープロ検定3級
と秘書技能検定2級を取りました。当時、男女雇用均等法は施行後で
したが、いざ就職の際には、大企業はまだまだ女性は自宅通勤が条件
だったように記憶しています。自宅通学の友人には就職情報誌が届い
ても、アパート暮らしの私には届かないこともありました。就職課で
地方出身者を集めてセミナーを開いてくれたこともありましたが、地
方での就職については何か助けてくれる訳ではなく、農協などある
との紹介程度でした。元々公務員になって山形へ帰ろうと思っていた
私は、同じ公務員志望の友人と励ましあいながら勉強し、友人は横浜
市、私は山形県の職員になることが出来ました。以来今年で勤続35年、
県立病院、短期大学校、出納局、総合支庁など3～5年くらいで様々な
部署に所属しましたが、令和7年4月からは山形県教育委員会で教育
長の秘書の仕事をしています。思いがけず短大時代に取得した秘書検
定が35年の時を経て役に立ったことに驚いています。ワープロ検定
については、今となってはもう履歴書にも書けませんが(笑)

私の在籍した学科は残念ながらなくなってしまいましたが、あの2
年間があったから今があると感謝しています。

創立 125 周年記念事業 「さがみデジタルミュージアム」を公開しました

本学園では、創立 125 周年記念事業の一環として、これまで保管し
てきた歴史資料のデジタル化を進めてきました。アーカイブ室設置準
備室の段階から進めてきた資料のデジタル化が徐々に整い、このたび、
外部クラウドシステムを活用し、一部のデータをインターネット上で
閲覧・検索できる「さがみデジタルミュージアム」を公開いたしました。

これにより、学園関係者をはじめ、卒業生や地域の皆さまにも、本
学園の歩みや歴史的資料に気軽に触れていただける新たな環境が整
いました。過去の写真や記録を通じて、学園の魅力や地域とのつなが
りを再発見していただける場となることを期待しています。

なお、今回の公開は、2030 年度の完成を目指すミュージアム構築
計画の第一段階にあたります。今後も資料のデジタル化を進めるとと
もに、掲載画像の拡充やコンテンツの充実継続して取り組み、より
多くの皆さまにご活用いただけるアーカイブを目指してまいります。



▲2次元コードからご覧いただけます。

2025年度マーガレット募金/創立125周年記念事業募金決算報告

「マーガレット募金」及び「創立125周年記念事業募金」の収支について、下記のとおりご報告いたします。
ご支援いただきました皆様へ厚くお礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之/創立125周年記念事業募金委員会委員長 速水俊裕

2025年度マーガレット募金決算報告

自2025年4月1日 至2026年3月31日

収入の部		
計	347件	3,774,642円
前年度繰越金	-	59,668,883円
合計	-	63,443,525円

支出の部	
計	1,055,452円
翌年度繰越金	62,388,073円
合計	63,443,525円

活動内容

「学習活動支援事業」 募集（応募9件 採択6件） 「教育・研究活動支援事業」 募集（応募2件 採択2件）
「キャンパス整備事業」 募集（応募6件 採択2件） 「特色ある教育への支援」 申請（応募2件 採択2件）

寄付者ご芳名（敬称略、五十音順）

個人（計88名、うち匿名希望33名、未記入8名）

秋澤 亮子 有田 雅一 石塚けい子 泉 邦寿 岩下 仁子 梅林 博人 奥村 裕司 角田 雅昭 風間 誠史 片岡 朋子
金森 剛 上條美和子 菊地 鈴子 清島 健一 小泉 京美 近藤 晃一 齋藤 淳志 齋藤 秀麿 庄司 フミ 杉江 文子
高野 由美 多喜美奈子 竹下 昌之 田中 啓之 田中 百子 田村 周子 丹喜 信義 徳江 明美 直井 秀樹 中島 和彦
中野 沙織 仲野ひかり 速水 俊裕 本田 良枝 間宮 康子 水上 由紀 水野 義孝 村上 清子 望月 慶子 望月 雄介
守山 茂樹 柳沢 香絵 山岸 英治 山田とし子 湧口 清隆 吉野 幸子 渡邊 雅史

法人および団体（計3件）

神奈川ファイリング株式会社 株式会社3pm・さんじ 西洋菓子海援隊

2025年度創立125周年記念事業募金決算報告

自2025年4月1日 至2026年3月31日

収入の部		
計	285件	8,480,116円
前年度繰越金	-	18,826,134円
合計	-	27,306,250円

支出の部	
計	0円
翌年度繰越金	27,306,250円
合計	27,306,250円

寄付者ご芳名（敬称略、五十音順）

個人（計111名、うち匿名希望40名、未記入8名）

相木 順子 有馬 幸子 石塚けい子 市村 緋菜 稲田深智子 今井 敦子 井村 幸子 岩本 明子 梅林 博人 浦辺 敏子
大塚 光子 岡野 良康 風間 誠史 櫻本 絹子 片岡 朋子 金井美恵子 金森 剛 川井絵里香 川野辺和雄 菊川 恭一
金 相賢 黒川 大輔 後藤みい子 西條 健太 齋藤 淳志 佐藤 貴子 佐藤 由美 下西春菜子 新明 則恭 鈴木 哲哉
須藤 淑子 関根 仁 高野由美子 高橋 綾子 竹下 昌之 立川 和子 谷口 直人 田村 周子 千葉 仁子 円谷 由子
富樫 慎治 内藤 里美 中島 和彦 中島美千代 中島 諒子 永田 碧 永田 傑 中野チナミ 中村 真理 鍋倉 薫
西澤 陽子 羽島久美子 速水 俊裕 藤井三枝子 本田 良枝 松井 優香 村越 輝美 本橋 明彦 森田 晃一 森田 勉
山川 泰宏 山木 利満 山本 卓史 吉田亜耶斗

法人および団体（計6件）

愛知株式会社 小田急電鉄株式会社 神奈川ファイリング株式会社 株式会社グランドパワー 西館一般公開参加者一同 相模女子大学同窓会翠葉

ご寄付に関するお問合せについて

「マーガレット募金」及び「創立125周年記念事業募金」については下記の連絡先までお問い合わせください。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

- お問合せ先
学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課 〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9173 FAX:042-749-6500
E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp 詳細につきましては、大学ホームページ（<https://www.sagami-wu.ac.jp/>）からでもご確認いただけます。
- その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916

125th Anniversary
since 1900

相模女子大学は創立125周年を迎えました。

学校法人 相模女子大学